IEEJ：2008 年 11 月掲載

サマリー

サハリンプロジェクトを中心とした日本・ロシア・アメリカのエネルギー協力

戦略・産業ユニット石油・ガス戦略グループ　研究員
スヴェトラーナ・ヴァシリューク（Svetlana Vassiliouk）

本稿では、ロシア、日本、アメリカとの 3 ヶ国間のエネルギー協力の過去、現在、そして展望を、同国をめぐる国際政治と所謂資源外交の関連の視点で分析した。3 ヶ国間のエネルギー協力における最初のイニシアティブは、特に 1970 年代の前半に提案された西シベリア（ヤクート天然ガス開発プロジェクトおよびチュメニ石油開発プロジェクト）及びソ連極東（サハリン大陸棚石油ガス探鉱プロジェクト）を中心としたソ連のエネルギー資源の共同開発というプロジェクトであった。このプロジェクトやイニシアティブは、特に冷戦時代下の政治・戦略的な理由でスムーズに進んでいなかった。しかし、3 ヶ国間においては、過去の協力の前例からの重要な教訓を顧みることは、ロシアにおける日本、米国、ロシア間での現在そして将来のエネルギー協力を進めるために大いに寄与する。

最近の 3 ヶ国間のエネルギー・プロジェクトや協力提案などはサハリンにおけるプロジェクト（サハリン１および 2 プロジェクト）とシベリア沿海州におけるプロジェクト（ESPO パイプラインと関連プロジェクト）に限定されているように見える。現在、日本と米国が、世界的なエネルギー生産国であるロシアとの間で相互エネルギー協力を模索することは自然な現象であるが、潜在的な 3 ヶ国間の協力として計画されている様々なプロジェクトにも関わらず、日本、米国、ロシアは、依然として全面的なエネルギー協力からの果実を享受する段階には至っていない。

3 ヶ国間のエネルギー協力の展望・将来を考えると、長期のコミットや巨額の投資を必要とする大規模なエネルギー・プロジェクトの実現のためには、米国の参加が大きな役割を果たす。日本と共にロシアのエネルギー・プロジェクトに米国が参加することは、米国からの投資や先進技術へのアクセスに加えて、エネルギー輸出先の多様化のための機会を提供することになろう。3 国間のエネルギー・プロジェクトの実現の可能性を高めるためには、様々な課題に対して、米国、日本、そしてロシア各国の政府のレベルで、効果的かつタイムリーに課題に沿ったアプローチがとられる必要がある。最後に、これらの 3 ヶ国間のエネルギー協力は、3 ヶ国の経済・エネルギー面でのニーズに貢献するだけでなく、相互エネルギー協力の成功例を示すことにより、北東アジア地域全体のエネルギー協力の強化にも大きく貢献することになろう。

お問合せ：report@tky.ieej.or.jp